

令和5年度病害虫発生予報第1号（5月予報）概要表

令和5年4月27日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）の移植期防除対策</u>	/	/
(1) いもち病（葉いもち）		
(2) 縞葉枯病		
(3) イネミズゾウムシ		
(4) スクミリンゴガイ		
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）の育苗期防除対策</u>	/	/
(1) いもち病（育苗期）		
(2) もみ枯細菌病（育苗期）		
(3) スクミリンゴガイ		
<u>3 麦</u>		
(1) さび病類（コムギ赤さび病、オオムギ小さび病）		やや少
(2) うどんこ病		並
(3) 赤かび病		並
(4) アブラムシ類		やや少
<u>4 なし</u>		
(1) 黒星病		並
(2) アブラムシ類		やや多
(3) ハダニ類		並
(4) 果樹カメムシ類		並*
(5) シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）（第1世代幼虫）	やや早	やや多
<u>5 トマト（冬春栽培）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) 葉かび病		並
(3) コナジラミ類		多
<u>6 なす（夏秋栽培）</u>		
(1) アザミウマ類		やや多
(2) アブラムシ類		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>7 きゅうり (冬春栽培)</u>		
(1) ベと病		やや少
(2) うどんこ病		やや多
(3) 褐斑病		並
(4) アザミウマ類		多
(5) コナジラミ類		多
<u>8 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) ネギアザミウマ		やや多
<u>9 茶</u>		
(1) チャハマキ (第 1 世代幼虫)	早	並
(2) チャノコカクモンハマキ (第 1 世代幼虫)	早	並
(3) チャノホソガ (第 1 世代幼虫)	早	並
(4) チャノミドリヒメヨコバイ		多
(5) カンザワハダニ		多
(6) クワシロカイガラムシ (第 1 世代幼虫)	早	

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和 5 年 5 月 1 日～8 月 3 1 日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和 5 年度病害虫発生予報第 1 号（5 月予報）

令和 5 年 4 月 2 7 日
埼玉県病害虫防除所

1 水稻（5 月中旬までの移植）の移植期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	<ul style="list-style-type: none"> ・補植後の苗は感染源となるため、早めに撤去する。 ・移植後に発生が見られた場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、本田防除を実施する。
縞葉枯病	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ、キヌヒカリ等の本病感受性品種で箱施薬を実施しなかった場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、本病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの本田防除を実施する。
イネミズゾウムシ	<ul style="list-style-type: none"> ・箱施薬しなかったほ場で、移植直後から本虫の侵入が見られた場合は、速やかに本田防除を実施する。
スクミリンゴガイ	<ul style="list-style-type: none"> ・移植前の入水時から移植後 3 週間まで、取水口・排水口に 9 mm 目合のネットや金網を設置する。 ・常発地域では、移植時に本田防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常発地や昨年多発した地域で、播種時箱施薬を実施していない場合は、移植前の箱施薬剤で防除する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。 	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

2 水稻（5 月下旬以降の移植）の育苗期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
いもち病 (育苗期)	<ul style="list-style-type: none"> ・移植後に発生が見られた場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、種子予措を実施する。 ・育苗箱に発生した場合、薬剤による防除を実施し、日中は寒冷紗被覆をはがすなどして通風の改善を行う。
もみ枯細菌病 (育苗期)	<ul style="list-style-type: none"> ・温湯消毒を行う場合、60℃10 分間処理では効果が不十分なことがある。そのため、薬剤による消毒を行うか、事前に十分な発芽率を確認した上で、60℃15 分間処理を行う。 ・病原細菌は高温で増殖するので、催芽時及び播種後の温度を 28℃以上にならないよう管理する。
スクミリンゴガイ	<ul style="list-style-type: none"> ・移植前の入水時から移植後 3 週間まで、取水口・排水口に 9 mm 目合のネットや金網を設置する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常発地や昨年多発した地域では、播種期～育苗期に箱施薬剤を使用して防除を徹底する。 	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 麦

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病 〔コムギ〕 赤さび病 オオムギ 小さび病	やや少	○4月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(+)	・窒素質肥料の過多などにより、過繁茂となっているほ場では発生しやすいため、ほ場をよく観察し、初期防除に努める。
うどんこ病	並	○4月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・ほ場観察に努め、止葉を含む上位2葉に病斑が進展する恐れがある場合は、薬剤による防除を実施する。
赤かび病	並	○4月中旬の発生量：無 □4月26日現在の子のう胞子飛散好適日出現日数(3月1日からの積算)：9日(平年7.4日)(±) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・4月15日～17日に子のう胞子の飛散好適日が連続して出現しているため、大麦類や早播きの小麦では発病に注意する。 ・開花期防除後に降雨が継続した場合、小麦では開花10日後、六条大麦では穂揃期から10日後に再度薬剤防除を実施する。
アブラムシ類	やや少	○4月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：やや少(-) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(-)	・多発ほ場では稔実不良による減収や品質低下が発生するので、乳熟期までに薬剤防除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	発生量並	○4月中旬の発生量：多 ^{**} □前年秋季の発生量：少（－） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・3月および4月の高温により発生時期が早いため、早期に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
アブラムシ類	発生量やや多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（－）	・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
ハダニ類	発生量並	○4月中旬の発生量：散見 □果菜類でのハダニ類の発生：平年並（±） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（－）	・ナミハダニ及びカンザワハダニは、5月以降に施設イチゴ、ナスなどから移動して発生が増加することがあるので注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
果樹カメムシ類	発生量並 [*]	○4月中旬の発生量：－ □越冬密度調査：平年並（±） □予察灯による誘殺数：平年並（±） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表のフェロモントラップ等のデータを参考に、発生動向に注意して防除を実施する。（ 参照2 ）
シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）（第1世代幼虫）	発生時期やや早 発生量やや多	○4月中旬の発生量：－ ■フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺時期：やや早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を第1世代成虫の発生期（5月下旬～6月上旬）から使用する。ナン園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。（ 参照2 ）

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○4月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(+)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
葉かび病	並	○4月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(+)	・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
コナジラミ類	多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い(±)	・本虫はトマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

6 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
アザミウマ類	やや多	○4月中旬の発生量：－ □果菜類での発生量：多(+) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(-)	・3月および4月の高温により、発生時期が早まる可能性があるため、定植時の防除を徹底する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	やや多	○4月中旬の発生量：－ □果菜類またはナンでの発生量：多(+) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(-)	・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや少	○4月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
うどんこ病	やや多	○4月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・やや乾燥した条件により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・樹勢低下は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
褐斑病	並	○4月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い(±)	・本虫は黄化えそ病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
コナジラミ類	多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い(±)	・本虫は退緑黄化病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○4月中旬の発生量：散見 □前年秋期の発生量：－（－） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（＋）	
ネギ アザミウマ	やや多	○4月中旬の発生量：散見 □前年秋期の発生量：多（＋） □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・定植時の防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

9 茶

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャハマキ (第1世代幼虫)	発生時期 早 発生量 並	○4月中旬の発生量：並 ■県予察ほ場の越冬世代成虫初飛来日は4月6日(平年比-11日)：早(+) ■フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺時期：早(+) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・越冬世代成虫の発生ピークがここ数年早まっているので、防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶終了後速やかに防除対策を実施する。(参照2)
チャノコカクモンハマキ (第1世代幼虫)	発生時期 早 発生量 並	○4月中旬の発生量：無 ■県予察ほ場の越冬世代成虫初飛来日は、4月19日(平年比-11日)：早(+) ■フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺時期：早(+) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・越冬世代成虫の発生ピークがここ数年早まっているので、防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶終了後速やかに防除対策を実施する。(参照2)
チャノホソガ (第1世代幼虫)	発生時期 早 発生量 並	○4月中旬の発生量：無 ■フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺時期：早(+) □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶の摘採時期の三角葉巻が目立つ前に早めに摘採するか、薬剤による防除対策を実施する。(参照2)
チャノミドリヒメヨコバイ	発生量 多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

カンザワ ハダニ	発生量 多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・一番茶摘採前の新芽に発生が多く認められる場合は、摘採前日数に十分注意しながら、防除対策を実施する。
クワシロ カイガラムシ (第1世代幼虫)	発生時期 早	■有効積算温度による第1世代幼虫ふ化最盛期は、5月11日と予測される。(アメダスデータ青梅：平年5月26日)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、ふ化幼虫期を中心とした短期間なので、関係機関から出される最新の防除時期予測に留意する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和5年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 気象概要 1 か月予報 (令和5年4月20日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

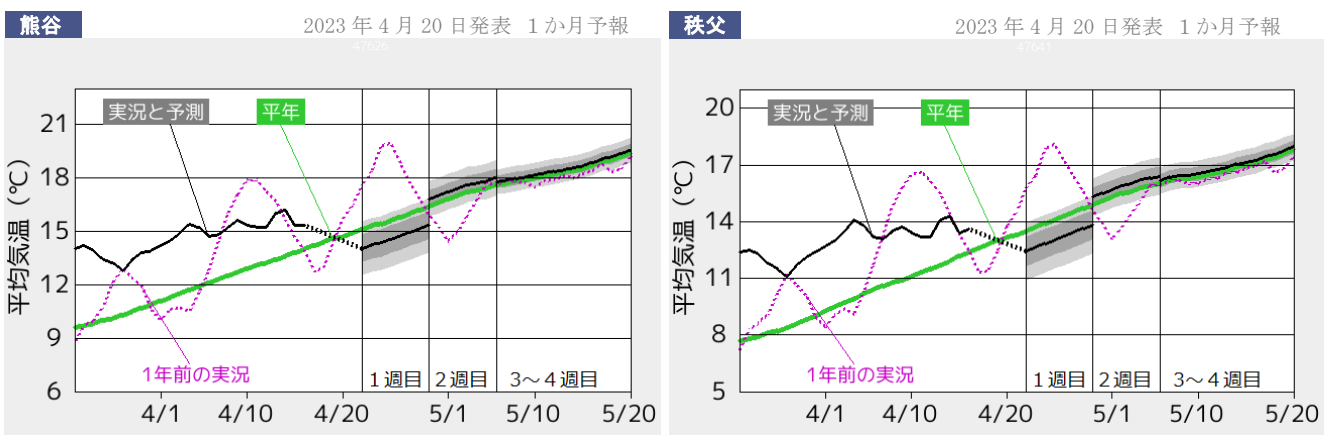
- ・期間のはじめを中心に寒気の影響を受けやすいため、向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。
- ・気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 関東甲信地方	40	40	20
【降水量】 関東甲信地方	20	40	40
【日照時間】 関東甲信地方	40	40	20

凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

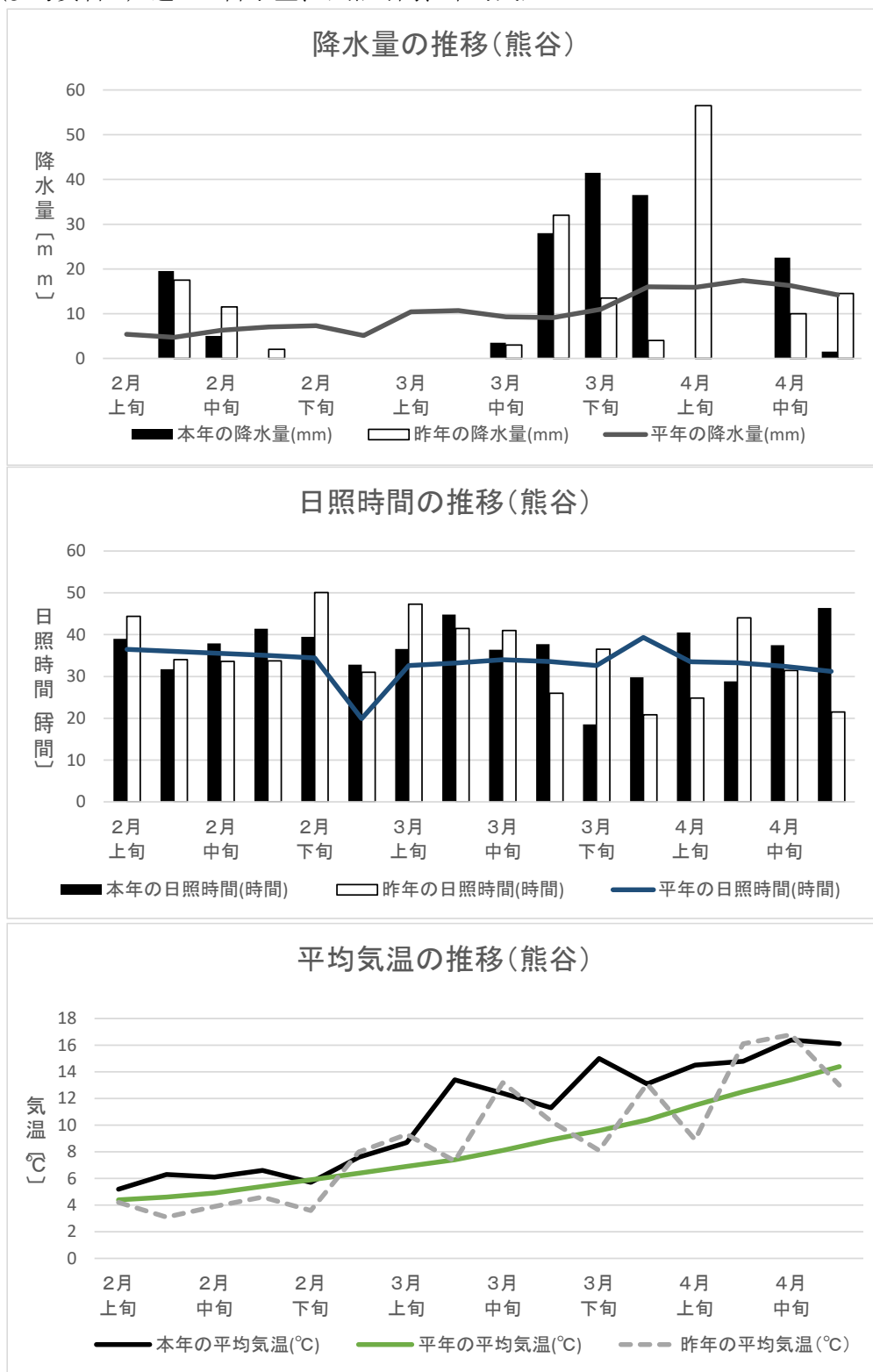
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)** ———
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)** ———
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網かけで、70%の幅を薄い網かけで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)** ———
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)** - - - - -
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の降水量、日照時間、平均気温



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
 http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/